

かずのならばかたをかんがえよう

単 元	10 よりおおきいかず	対象学年	1 年
ね ら い	10 より大きい数の仕組みに関心をもつことができる。		

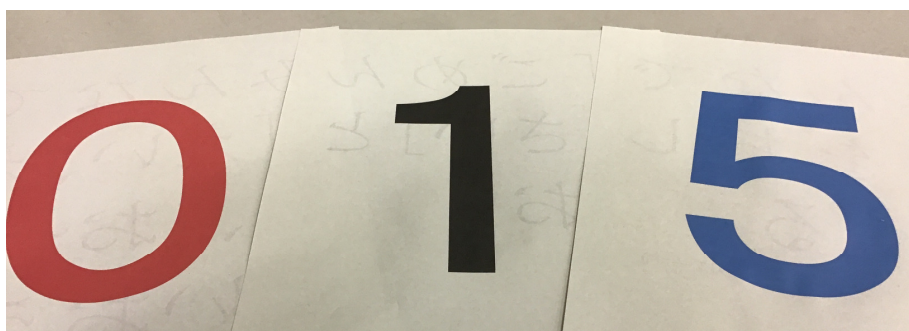
1 準備するもの

教師： すごろくカード

(表には数字1～20 までが書いてある。裏にはお題，例えば，「みんなにありがとうと言おう」など，さいころを転がした児童がそのお題をやるようなもの)

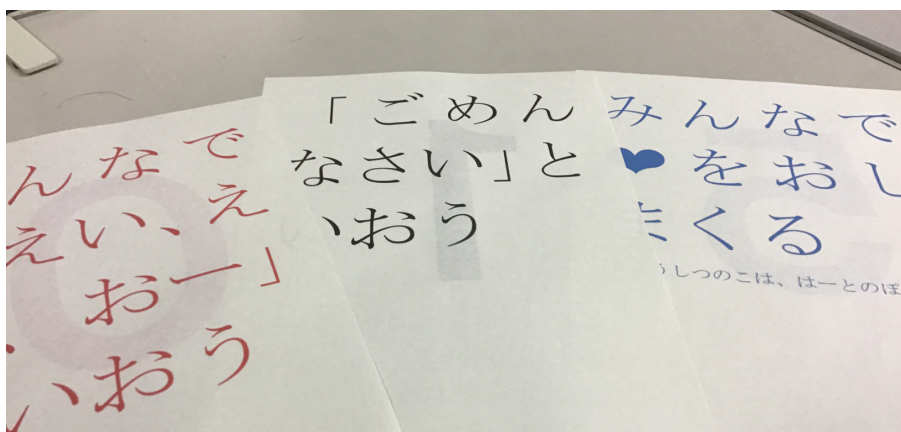
※数字には，基準となる数(0・5・10・15・20 など)には，特別に色を付けておき，その基準をたよりに数の並び方を考えられるようにする。

表



※0・10・20 は赤，5・15 は青

裏



2 学習のしかた

(1) みんなですごろくをする。

数字を表にして黒板に貼り，すごろくをする。代表者がさいころを振り，出た目によって，みんなで「1つ，2つ，3つ，…」と呼びながら，こまを進める。止まったマスの裏を向け，クラスみんなで楽しみながらすごろくをする。

(2) 課題を設定する。

「数の並び方について考えよう」

(3) レベルを変えてすごろくをする。

レベル①出た目で、どのマス（数字）に止まるのか考える。

このときに、「どうしてそう考えたのか」を問う。

レベル②出た目と、コインの表裏でどのマス（数字）に止まるのか考える。

(コイン表→前へ、コイン裏→後ろへ進む)

※たし算やひき算の考え方を使う児童もいる。称賛しつつ、本当にそうなるか確かめてみよう」と言って、数字を順番に読む活動を入れる。

レベル③お題のみが見えるようにして、色付きのマス（0・5・10・15・20）をたよりに、止まると予想したお題を行う。

- ・色付きマスの数字を見せている状態でコマを動かす。
- ・どのマス（数字）に止まるのか、予想をし、その理由を発表する。
- ・友達同士で、理由を発表する。

(4) 数字を一行に並べて、「数の線」について知る。

- ・数直線上でも同じように、マスを進めたり、戻ったりできることを確認する。
- ・時間があれば実際に数直線を書く。

(5) ふりかえりを発表する。

3 学習上の留意点

- ・時間がかかってしまうため、それぞれのレベルは端的に進める。もしくは、3～4人のグループ活動で行うと児童の出番が増えてよい。
- ・盛り上がりすぎてしまうので、裏に書くお題は大声を出さないで済むものにする。
- ・低位の児童にいきなりたし算・ひき算の考えを持ち込んだものはあまり浸透しない。そのため、まずは、ちゃんと一つずつ数えられることを一番にし、「1・2・3…」と数えながらコマを進めたり、「15・14・13…」とコマの進む数だけ指を折ったりしながら、数の仕組みを理解できるようにする。

4 学習の効果

- ・操作活動を通して数の仕組みを捉えるため定着がよい。
- ・数の数え方や、たし算・ひき算の仕組みなど多様な考え方ができるので、それぞれのレベルに合わせて数え方を選ぶことができる。(目標は、数を数えること)
- ・たし算、ひき算の発展としても使えるため、「10より大きい数のたし算・ひき算」へつながる考え方を認めていくとよい。